

# 平成19年3月期 決算説明資料

株式会社ディーエムエス





## 平成19年3月期 総括

### <トピックス>

平成19年3月期において当社は、業務センターを中核とした生産体制の増強と効率化により、宛名データ処理・出力業務やフィルムラッピングをはじめとしたメーリングサービス業務の内製化を推進するとともに、提案型営業による新規顧客開拓や、大口割引制度を利用した冊子小包郵便の取り扱いの拡大を図りました。また、「プライバシーマーク」「ISMS」の認証取得を維持し、個人情報保護におけるマネジメントシステムを一層強化することで、サービスと情報セキュリティの両面から顧客満足を追求いたしました。

### <営業成績>

「売上高」は前期比1.0%の減収となりました。  
「利益」につきましては、内製化の推進および販管費抑制に努めましたが、一部の通販カタログ発送業務において、複雑な封入仕様による生産性の低下が生じ、予定原価を大きく上回る結果となったことなどにより、減益となりました。



## 平成19年3月期 経営成績

### 個別

売上高	17,945百万円	(前年同期比1.0%減)
経常利益	721百万円	(前年同期比23.2%減)
当期純利益	477百万円	(前年同期比3.3%減)

### 連結

売上高	18,215百万円	(前年同期比1.1%減)
経常利益	725百万円	(前年同期比22.1%減)
当期純利益	482百万円	(前年同期比0.7%増)

<連結子会社2社> 「株式会社デック」 「東京セールス・プロデュース株式会社」

# 損益計算書

## 【個別】

(単位:百万円)

	前 期	当 期	増 減
売上高	18,133	17,945	△ 187
売上原価	15,936	15,895	△ 40
売上総利益	2,197	2,049	△ 147
販売費及び一般管理費	1,282	1,285	3
営業利益	915	764	△ 150
営業外収益	138	54	△ 84
営業外費用	114	97	△ 16
経常利益	939	721	△ 218
特別利益	14	113	98
特別損失	106	3	△ 102
税引前当期純利益	847	831	△ 16
法人税, 住民税及び事業税	283	279	△ 3
法人税等調整額	70	74	3
当期純利益	493	477	△ 16

## 【連結】

(単位:百万円)

	前 期	当 期	増 減
売上高	18,413	18,215	△ 198
売上原価	16,165	16,129	△ 36
売上総利益	2,248	2,086	△ 162
販売費及び一般管理費	1,336	1,320	△ 15
営業利益	912	765	△ 147
営業外収益	134	57	△ 77
営業外費用	116	97	△ 18
経常利益	930	725	△ 205
特別利益	14	116	102
特別損失	110	3	△ 106
税金等調整前当期純利益	834	838	3
法人税, 住民税及び事業税	284	281	△ 3
法人税等調整額	71	75	4
当期純利益	478	482	3

# 貸借対照表

## 【個別】

(単位:百万円)

	前期	当期	増減
流動資産	5,653	5,813	159
固定資産	7,557	6,989	△ 568
資産合計	13,211	12,802	△ 408
流動負債	3,937	3,860	△ 77
固定負債	4,328	3,851	△ 477
負債合計	8,266	7,711	△ 554
資本合計	4,945	—	—
負債及び資本合計	13,211	—	—
純資産合計	—	5,090	—
負債純資産合計	—	12,802	—

## 【連結】

(単位:百万円)

	前期	当期	増減
流動資産	5,844	6,006	161
固定資産	7,488	6,920	△ 568
資産合計	13,332	12,926	△ 406
流動負債	3,969	3,890	△ 79
固定負債	4,329	3,851	△ 477
負債合計	8,298	7,741	△ 556
資本合計	5,034	—	—
負債及び資本合計	13,332	—	—
純資産合計	—	5,184	—
負債純資産合計	—	12,926	—



# キャッシュ・フロー計算書（連結）

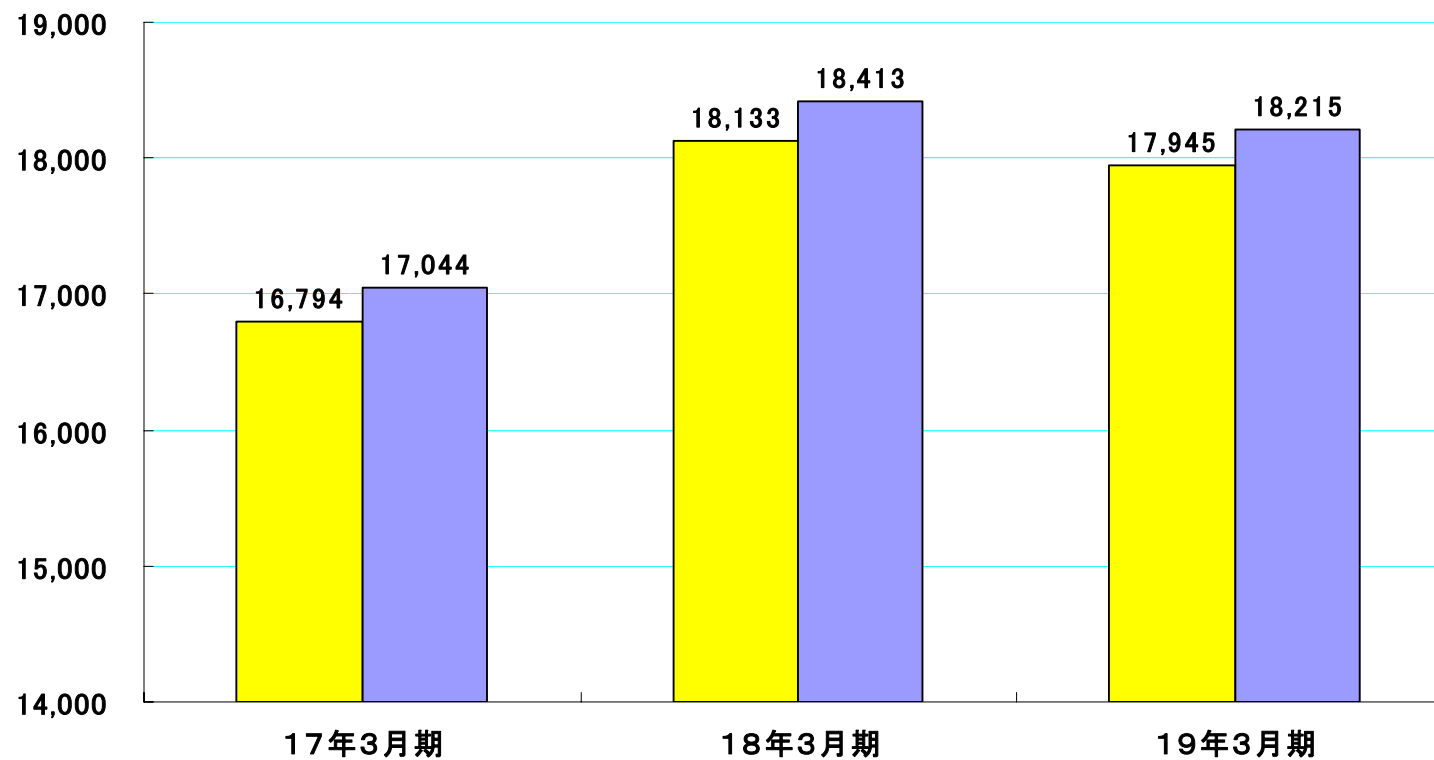
（単位：百万円）

	17年3月期	18年3月期	19年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	302	809	86
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 174	227	△ 156
財務活動によるキャッシュ・フロー	565	△ 768	△ 461
現金および現金同等物の増減額（減少：△）	693	267	△ 530
現金および現金同等物の期首残高	1,059	1,753	2,021
現金および現金同等物の期末残高	1,753	2,021	1,490

# 売上高の推移

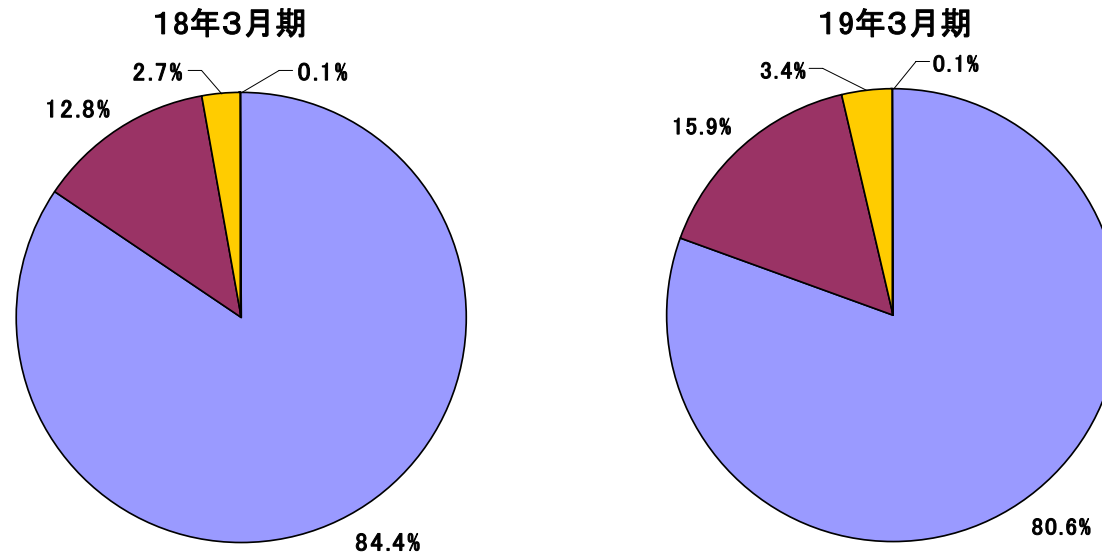
■ 個別  
■ 連結

(百万円)



# セグメント別売上高（連結）

- ダイレクトメール
- セールスプロモーション
- イベント



(単位:百万円)

	18年3月期	19年3月期
ダイレクトメール	15,543	14,682
セールスプロモーション	2,362	2,894
イベント	498	625
その他	9	14
合計	18,413	18,215

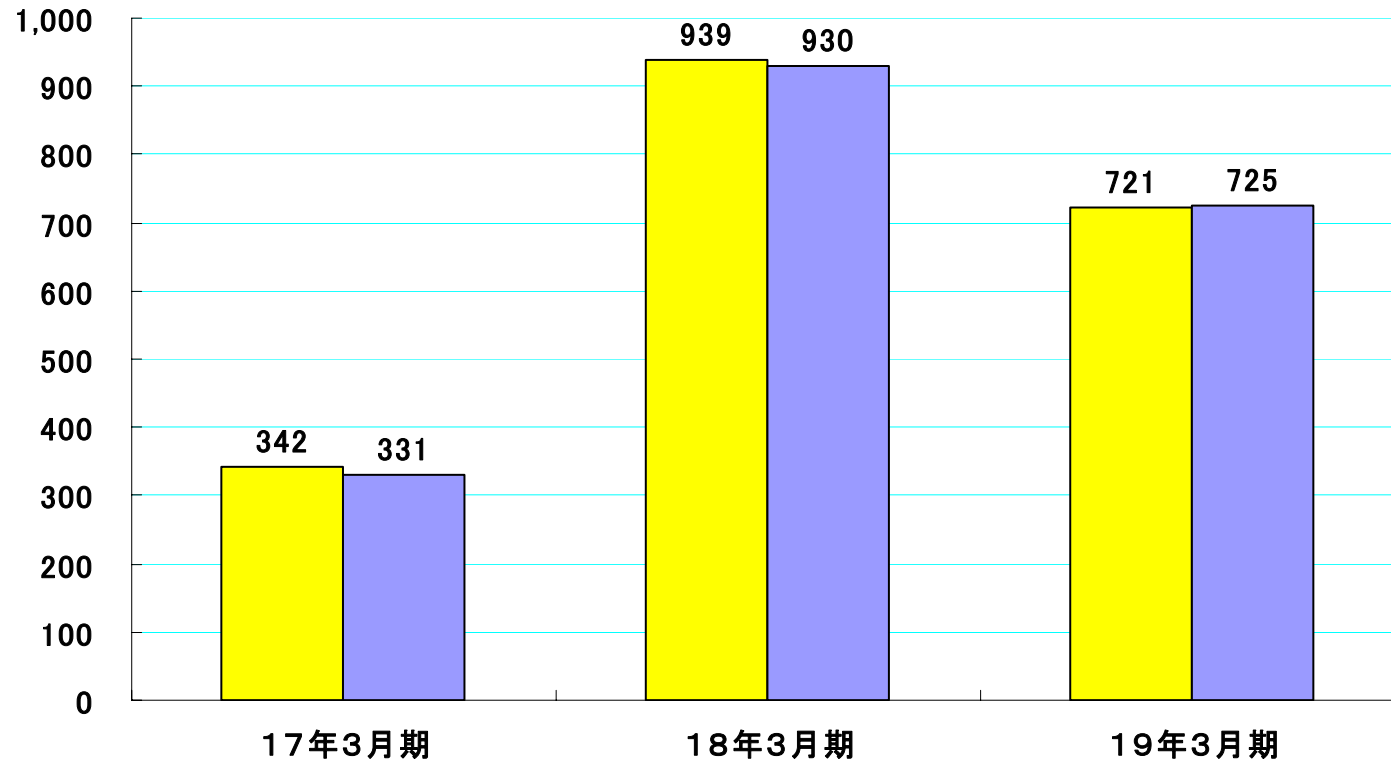
(注) 当連結会計年度(19年3月期)から、事業の種類を集計方法を業務の機能別アプローチにより詳細に行えるように見直しております。なお、前連結会計年度(18年3月期)の数値は、変更した事業の種類を集計方法によって算出しております。上記事項は事業区分の方法の変更には該当いたしません。



# 経常利益の推移

■ 個別  
■ 連結

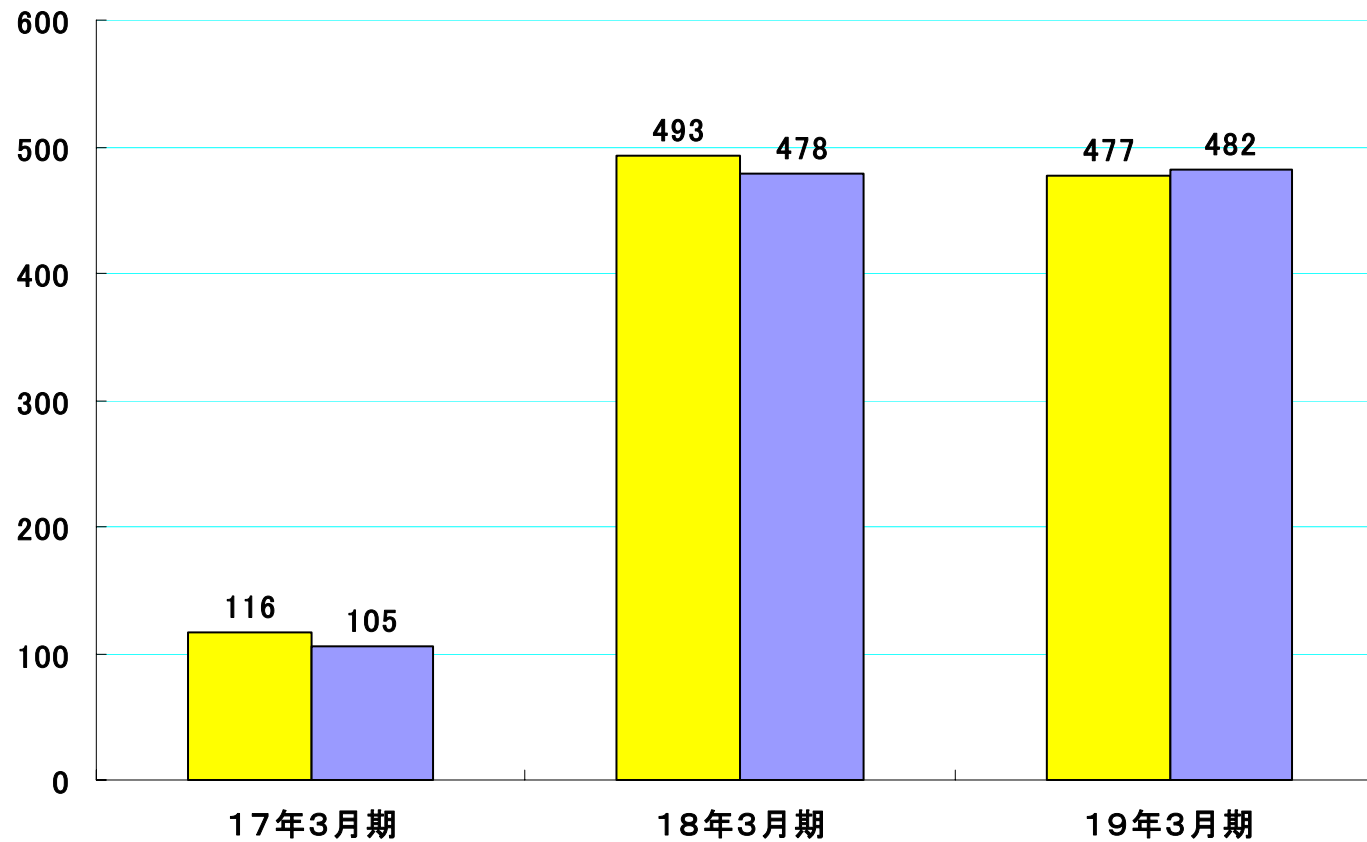
(百万円)



# 当期純利益の推移

■ 個別  
■ 連結

(百万円)





## 経営の基本方針

---

『株主には利益還元で奉仕を』

『顧客にはニーズにあった質のよいサービスを』

『社員には幸せで豊かなくらしを』

『社会には貢献を』



# 中長期的な経営戦略

企業と消費者の双方向の情報交換を実現する  
ダイレクトコミュニケーションの先進企業として

- 業務センターを中核とした生産体制の効率化と内製化促進
- 最新IT技術を駆使した各種機能の拡張と高度化によるトータルサービスの充実
- 新商品開発や提携戦略による業務領域の拡張と競争力の向上
- 汎用性を高めた情報処理および物流加工運営システムを展開しての周辺業務領域への進出
- 個人情報を中心とする機密情報管理の徹底

などを主要テーマとし、業界先進企業にふさわしい強固な収益基盤を構築する。



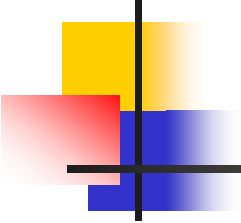
## 平成20年3月期 業績予想

### 個別

売上高	19,000百万円	(前期比5.9%増)
経常利益	950百万円	(前期比31.7%増)
当期純利益	520百万円	(前期比7.9%増)
1株当たり年間配当金	20円00銭	(前期と同額)

### 連結

売上高	19,300百万円	(前期比6.0%増)
経常利益	953百万円	(前期比31.4%増)
当期純利益	523百万円	(前期比8.5%増)



# 会社の対処すべき課題

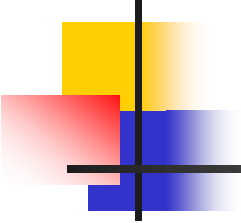
## 当社を取り巻く環境

- 景気回復傾向に伴い企業の広告需要の高まりが期待される。
- 顧客企業において、自社のデータベースに基づき消費者の志向特性に応じたきめ細かいマーケティング活動を重視する傾向が強くなっている。
- ✿ 顧客からの品質・価格・納期の要求水準が大幅にアップ。
- ✿ 個人情報流出リスクに対し、万全な保護施策の実施を要請。



## 1. 最高レベルのサービス提供と内製強化

“ディーエムエス業務センター”（さいたま市）を中核に、生産能力強化と生産性向上を強力に推進しており、「品質・価格・納期・情報管理」の面で、業界最高レベルのサービスを追求すると同時に、個人情報流出リスクに対処するため、業務センターでの内製化を推進しており、生産体制と安全性の両面から、名実ともに「ワンストップ・サービス」が実現できることで、業容の拡大と業績の向上に大きく寄与するものと考えております。



## 2. 周辺事業への進出

当社が誇るトータルサービスは、「高度な情報処理システムに支えられた最先端の物流加工業」として顧客の要望にお応えしております。今後はこれらの様々な機能を複合的かつ発展的に活用し、ビジネスチャンスを拡大するべく、周辺業務領域の拡張と進出に向け、各種施策を検討してまいります。また、紙の媒体であるダイレクトメールとの相乗効果が期待できるインターネット広告分野への進出も模索しております。





### 3. CRM需要への対応

顧客企業のマーケティング戦略において、CRM（消費者との長期的な関係を築く手法）が重要視され、消費者に最適な情報を送るための様々な施策が実施されております。こうした状況において、当社は、情報印刷分野における業務提携や自動選択封入・フィルムラッピング機、配送コストにおけるスケールメリットなどの有力リソースの活用度をさらに高めるとともに、資料請求対応やポイントサービス事務局など対消費者窓口のノウハウを生かし、顧客のCRMの実践を支援することで、顧客との長期的な取引による収益の確保と拡大を図ってまいります。



## 4. 個人情報の保護

当社は、個人情報保護問題の先駆者として、平成11年に「プライバシーマーク」を取得し、平成17年に「ISMS」の認証を取得しております。業務センターにおいては、5段階のゾーンニング管理、非接触ICカードによる個人単位での入退出制限を実施し、全社ベースで最新技術によるネットワークへの不正アクセス防止と内部アクセス制限を強化するなど個人情報の流出防止を図っております。また、従業員のモラルアップと管理策の徹底のため、全社を対象にした教育研修を継続的に実施しております。今後もこの取り組みを維持・強化することで、さらに顧客企業の信頼を深め、受注の増強を図るとともに、消費者保護に努めてまいります。

※ISMS適用範囲: 管理本部、営業本部、プロモーション本部、業務本部。

業績見通しにつきましては、その目標達成に向けて事業を展開してまいりますが、経済状況や市場動向の変化など様々な要因により変動する可能性があります。

【本件資料に関するお問い合わせ】

株式会社ディーエムエス  
(社長室)  
TEL:03-3293-2961(代)